Good Wood Communication!

かけがわの森から

掛川市森林組合通信　2020年秋号　Vol.53

山が生きる、山を活かす技術。

施業現場の地形は、当たり前ですが千差万別。そこに作業道が開設できない場合、谷を跨いで太いワイヤーを張り、伐採した木材を「架線集材」という方法で運び出します。道がなくても木は成長し、利用価値は高まります。先人たちが作ってくれた森林資源を余すことなく活かすには安全かつ効率的なこの技術がどうしても必要です。私たちは「架線集材」という技術を大切に継承します。

榛村航一 組合長の 元気もりもり（森・森）通信 21

軒花（のきばな）は、祭りでなくとも。

今年の「掛川祭」の屋台の引き回しは10月9日（金）～11日（日）を予定していましたが、残念なことに新型コロナウイルス感染拡大に伴い、中止となってしまいました。城下町・掛川宿の伝統を色濃く残す街なかの「掛川祭」。秋の実りと稲の豊作を祈念する郊外の「掛川祭」。どちらも華やかに装飾された屋台が各町内を練り歩き、威勢の良いかけ声、お囃子、太鼓、笛などの音色に包まれ、本来なら、掛川全域がお祭り一色に染まるはずでした。

祭を鮮やかに彩る影の立役者が、軒花（のきばな）です。今年の祭事がなくなったことで、その軒花がなんと10万本以上も在庫になってしまう恐れがあります。掛川市内にある障がい者支援施設『掛川工房つつじ』に通われる利用者の皆さんの手で、この軒花が作られている事をご存じでしたか？軒花の竹は専用の窯で5，000本ずつ煮て、染めを得意とする利用者さんがむらなく緑色に染め、3週間かけて乾燥させます。そして花びらとなる半紙を慎重にピンク色の染め台の上に60枚並べ、支援員がチェックして次の染めに入ります。緑色に染まった竹を型の上に置き、花びらにノリをつけ貼り合わせ、表が終わると裏にし、ずらして花びらを合わせ、「軒花」の完成です。

軒花は、地域によって花の形が「四角」と「桜」、その重ね方、さらに葉の有無などこだわりと違いがあるため、利用者さんが苦心しながら、毎日こつこつ丁寧に、心を込めて一本ずつ手づくりしているのです。

軒花の売上げは、利用者さんの賃金になり施設運営のために活かされます。掛川祭が大好きな皆さん、身近な障がい者支援、地域貢献がここにあります。今こそコロナ禍の重苦しい雰囲気を、ハレの日のように明るくすべく、ご自宅を軒花で彩るのはいかがでしょう。当組合事務所は、この時期、この軒花で装飾したいと思います。

＼これいい！／ 購買担当「リエさん」の オススメGOODS!!

STIHLスチール バッテリーツール
GTA 26 ガイドバー10cm
（バッテリー・充電器付セット）…… **¥17,800**（税別）

片手でも持てる、軽くてかわいい電動チェンソーのご紹介です！ 直径 8cmまでの木が手軽に短時間で切断でき、庭木のお手入れや DIY 作業に便利です。ガソリン不要で騒音の心配もなく、操作も簡単ですので女性にもおすすめです♪

組合員さまへのお願い　相続等で所有山林に異動が生じた際は森林組合へご一報ください。

KAKEGAWA
Forest Owner's Cooperative

発行元
掛川市森林組合
〒436-0335 静岡県掛川市大和田320-1
TEL.0537-25-2111 FAX.0537-25-2113
http://kakemori.seesaa.net/

かけ森インタビュー③

業務遂行のキモは、メンバー同士の生真面目な"相互理解"と、日々の弛まぬ"連携進化"

今号のインタビューは掛川市森林組合の内部職員です。舞台は株式会社ノダが掛川市黒俣に保有する通称ノダ山。3.5haに及ぶ皆伐を、架線集材で行うなど、若手職員にとっては挑戦ともいえる難易度の高い施業現場でした。その現場を担う職員たちが、日々大切にしていたことは何だったのでしょうか。

今回の現場は架線集材という技術を用いて行われたのでしたね？

伊達：今回は400mの距離に直径24㎝の主索（ワイヤー）を張って集材しました。3.5haという規模は我々若手職員にとって初めてでした。一部は架線のプロ業者から技術指導をしてもらいました。約半年にわたり1日5人程度の職員が施業しました。

5人というとすごく少人数な印象です。役割分担は？

伊達：本当はもっと少人数で行いたいのですが、現場の都合上、主に5人となりました。中でも一番大変な作業は、架線のフックを木に掛ける荷掛け担当です。暑い中フックを持って、倒した木が折り重なる斜面を行き来し、吊り上げるときはその度に退避しないとなりません。ベテランの舟津さんが主に担当してくれました。

舟津：現場の連携を高め、安全性と効率性を考え、一番経験の長い自分が荷掛けの担当をしました。集材機を運転する若手の新美との連携で作業を進めました。

新美：僕は2年目の新人で、初めて集材機の運転を担当しました。舟津さんからの無線の指示に合わせて、アクセル操作やギアチェンジを的確に行い、スムーズな運転を心掛けました。

伊達：新美の操作するワイヤーによって運ばれた木をグラップルで受け取り、ハーベスタで規格に合わせて造材して丸太にする流れです。

連携という言葉がありました。

新美：集材機からは荷掛け者の様子は見えないので、無線からの指示を信頼して的確に運転操作することに徹しました。

伊達：舟津さんが滞らず良いリズムで動けるよう、土場側は意識を集中していましたね。

舟津：連携が乱れると、全体の動きが停滞してしまい木が集まらなくなってしまうんです。逆に全員のリズムが揃うと、おのずと木が集まってきました。こうした連携を保つためには必ずリーダーの存在が重要で、現場リーダーを伊達が務めてくれました。

伊達：毎日打合せを行いました。少しでもリズムが悪くなると問題点やお互いの考えを共有し、解決し、その積み重ねが現場の連携を築き上げるんだと思います。集材作業を終え、架線の撤去をして現場を完了します。この現場は決して易しくはありませんでしたが、今回培った技術は、今後掛川市森林組合の、施業の可能性を拡げます。何より半年をかけて築いた連携の力は大きな糧になるでしょう。

掛川市森林組合
舟津 貴史（ふなつ たかし）さん（写真左から3人目）
伊達 祐也（だて ゆうや）さん（写真中央）
新美 晃平（にいみ こうへい）さん（写真右から2人目）

原泉の丸太、横須賀認定こども園へ！

流通販売課 宮内 貴志

流通販売課の役割を一言で表現すると、「木を活かすための繋ぎ役」です。山で育った木が丸太になってからは、どこに出荷されるかによって利用のされ方が全く異なります。右ページで紹介した現場は株式会社ノダ様の山なので、大半は合板用材として山から旅立ちました。しかし、一部の良材は"横須賀認定こども園の建築材料"として地元製材所へ販売させていただきました。その取り組みをご紹介します。

製材所から丸太の注文を受けてまず、約70年生の木が立ち並ぶ3.5haの山の中から注文に合う丸太が採れそうな立木を探すところから始めます。節が入り過ぎないように、心材が黒くなく、なるべく年輪が詰まっているであろう立木へ、経験と感覚を頼りに目印のテープを巻いていきます。そうして選んだ山の中に散らばっている木を現場チームが伐り倒し、架線集材し、規格に合うよう造材して、寸検や検品をクリアすることでようやく製材所へ向けて出荷できます。

今回特に難しかったのは、必要な注文材が5mや6mといった"長くて太い材"だったことです。木は真っ直ぐなように見えて、実は曲がっているものも多くあります。ただでさえ採れそうな立木が少ない中から、皆で協力してなんとか注文数量を納材できました。

近年、全国のいたるところで中大規模建築物の木質・木造化が進められている中、山側には安定供給が求められています。掛川の山を活かすためにも、それに応えられる対応力・技術力を高めることが必要です。

お知らせ

第59回通常総会が終了 ～全議案を承認・可決へ～

総務・経理課

8月29日（土）に第59回通常総会が開催されました。例年であれば、来賓の方々、組合員の皆様にご出席いただき開催しておりましたが、今回は新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から、議決権行使書による権利行使を推奨し、例年より規模を縮小しての開催となりました。ご協力いただきましてありがとうございます。

今回も無事に事業報告ができましたのも、組合員はじめ関係機関の皆様のおかげと心よりお礼申し上げます。また、引き続きご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

次回は、多くの組合員の皆様のご出席のもと開催できることを願っております。

編集後記

広報紙アンケートにご協力いただきありがとうございます！

前回広報紙（Vol.52）のアンケート企画では、多くの読者の皆様からお声をいただきありがとうございました。広報チーム一同、企画、内容の充実を図り、皆様の貴重なご意見を、今後の広報紙に役立たせていただきます。

今後に乞うご期待！